

新職員のページ

今月号は先月号に引き続いて、統計課へ6月に異動になった二人を紹介します。

残りものには福があるとか、スペースが充分ありましたので、大いに書いていただくことにしたのですが、少々余白になりました。顔でカバーするそうです。

では、若い二人ですが、最後までよろしくお願い致します。



錯覚と現実

行政資料

高野 忠 男

第一印象というやつは、とかく当てにならないことが多い。それでいて、結婚と転職のときは大事にされる。

「彼女との出会い」ほどドラマチックなものはないが、その悲喜こもごもの出会いの中で、この第一印象というやつはなかなかの曲者だ。

秋一。何となく心の中に風が吹き貫けて物思いに沈み、一人公園のベンチに腰をおろし……ふと見上げた瞳に彼女の惱しい胸、白いえり足、長い髪……そして悲しげな後姿。ああ一思えばあの時から人生が狂ったなんていう話はよくある話ですね。

また、日本の代表的な「出会い」のひとつであるお見合いも風情があるものですね。そう、何人目かもうはつきりとは憶えていませんが、彼女なんか、ずーと下を見て恥らいを全身からあふれさせていました。純情な私はこんな優しいような女性なら……と思いつ込んだものでした。しかし、持つべきものは友だちですね。私の友人の解説によれば、私の知性あふれる顔よりも、畳の目の数に興味があったのだろうと。おまけに、一緒になっていたら身体中の毛の数まで数えられてしまうだろうと。でも、そういう人ってどうなんだろうかなって思ったのですが。すべて平凡がよいというので、私も平凡な結娘をして平凡に暮らすことにしたのです。こんなことを自慢気に話す人がよくいるものです。

さて、その劇的な出会いの結末といえば、少々結輪には早いようですが、あの時以来、後悔の念深く、今だにショックから立ち上がれない人が多いのでは？ 何ですって！ それからずーと敷かれっぱなしですか。どうりで立ち上がれない訳だ。

「結婚は相互の誤解の上に成り立つ」なっている人がいますが、つまりは人と人との出会いの人生で、第一印象は貴重な判断基準ですからいつも曇りのないように磨いておき

たいものですね。

私とは言えば、不思議なことに、風貌からか「取りつき難しい」と思われることが多いのですが、話してみると「話の内容も人間そのものも俗ぼくて私と同じだ」なんてへんにほめられたり？ するのです。どうもその原因は、この色メガネにあるんではと思うのです。人を色メガネで見るなんていけないことです。

話は違いますが、統計は変化する数字についての学問だなんて入門書に書いてありました。おまけに、このカズ、カズ、カズの世の中で統計的なものの方、考え方が出来ない人は人に非らずとか。小生などその意味では大部人間離れしているようです。でも統計課へ来て、少しは人間らしくなれるとはうれしいじゃありませんか。ところで人間の心の変化する統計なんてないでしょうね。

ともかくにも、私はこの当てにならないものに頼らざるを得ない人間というやつが好きですね。人生は、この当てにならない羅針盤ひとつでうまくやってゆかなくちゃならないなんて。考えてみると酷なものですなあー。なあーんちゃって。ではよろしく。



石のころ

企画指導

高村 実

いつものことながら、筆無精の私は原稿用紙に向かうと気が重くなります。頭の中が空白になってしまったような感覚に捕われて、時間が無駄に流れてしまうのです。今回も、ようやく観念してペンを取った次第です。

私は囲碁が好きで、時折り碁石を手にしますが、碁石は別名「手談」ともいうそうです。盤上に打ち下された石が打さ手を表現するのだそうです。盤上の石を通して打ち手同士が会話を交すという程の意味でしょうか。私もその辺がわかる打ち手になりたいものです。

また、これも碁石の用語なのですが、「石のころ」という言葉があります。盤上の石には心があるというのです。その石の心を打ち手が理解してやらないと、石がかわいそうだというのですね。

碁石に限らず、私達人間のすることには全て同じことができるのかも知れませんが、ジタバタしてもどうにもなりません。心しだいだと思っています。

申し遅れましたが、私はこの6月に統計課勤務を拝命したばかりの新米で西も東もわかりません。どうやら統計課の雰囲気慣れてきましたが、何分とも未熟ですので御指導の程宜しくお願いします。

駄文にて失礼しました。

オリエンテーリングへの招待

オリエンテーリング(略称OL),それは大自然の中に飛び込み,大自然の中で自由に走り回れるスポーツです。オリエンテーリングはドイツ語の"Orientierungslauf"のOとLをとったものです(方向を定めるOrientieren+走ることLaufの合成語)。このスポーツは,北欧スカンジナビアから広まりましたが最初は軍隊の将校養成訓練の一教科としての「斥候訓練」として始まり,その後19世紀末から20世紀初めにかけて民間に広まりました。日本には昭和41年に紹介され,本格的に普及したのは昭和45年ごろからでまだ日の浅いスポーツです。

オリエンテーリングの競技方法は,主催者が指定した方法で,指示したいいくつかの地点を地図とコンパス(方向磁石)を用いて探し出し,できるだけ早くゴールするスポーツです。また未知の地形における方向決定技術と体力,判断力,行動力等を養う頭脳のスポーツです。このオリエンテーリングには,基本的な競技形式としていくつかありますが,最も多く行われているものとしてポイントOLがあります。全日本大会や県民大会でもこの形式が取り入れられています。これは競技者が行くべきポスト(通過すべき地点)をはじめから地図上に示しておいて,それから競技者にルートを選択させ,ポストに導き,ゴールさせるものです。同じ山野をゲレンデとするクロスカントリーとはこの辺が違ってきます。それから日本独特のOLに徒歩OLがあります。これは3~5名のグループを作り同一の行動をとり,絶対に走ってはいけないOLです。オリエンテーリング入門にはこの徒歩OLが最適かと思えます。

6月11日に統計課の職員も一度このオリエンテーリングの醍醐味を味わいたいと高萩のコースに挑戦しました。小学生から50代を4~5名のグループに分け,各リーダーに地図とコンパスそして筆記具を渡し,地図の見方,コンパスの使い方について説明をし,5分間隔でスタートです。各グループともスタート直前に記念撮影。期待と不安の入り混じった顔と顔。でもこの日は特設コースを使用,距離約6km,ポスト数6,所要時間約90分である。一般的なポイントOLを採用。雨の降り出しそうな中を最初のグループがスタート,全部で6組,全員ゴールなるか。途中4番

目のポストから5番目のポストでどのルートをとるか。この取り方いかんではゴールするのにかなりの差が出るのではないかと思われました。果して1組だけ他のグループと全く反対方向にルートを選択し,方向もとがちがえてしまい,30分オーバーの2時間となって遂に捜索隊も出動する事態になりました。しかしゴールした後全員疲れも見せず無事第1回目のオリエンテーリングも終わりました。

最後に,県内のオリエンテーリングのパーマナントコース(ポスト常設コース)を紹介します。現在11カ所あり,いずれも距離約10km,ポスト数10,所要時間約3時間となっています。県内では高萩が最も早く設置されたもので,大心苑が起点となっています。高圧線,川,道路などはっきりしたガイドラインがあり,地形の変化もおもしろく太平洋も望まれる,入門に一番良いコースと思います。そのほか,愛宕・難台(岩間町中央公民館),筑波山(県立中央青年の家),里見・里川(県立野外活動センター),鹿島(鹿島ハイイツ前),真壁(真壁駅前),水戸(山根小学校前),笠間(佐白山),那珂湊(那珂湊駅前),奥久慈(大子町中央公民館),鉾田(鉾田町中央公民館)があります。なおOLマップはスタート地点付近の公民館あるいは商店で無料又は30円程度で販売しています。

立秋も過ぎ,さわやかな季節が訪れるこれから春にかけてがオリエンテーリングの絶好のシーズンです。あなたも家族全員で挑戦してみませんか。(綿引)



ポイント発見にホッとする第2班